

さがみおおやまかいどう

#18 相模大山街道

作者：大山阿夫利神社（おおやまあふりじんじゃ）

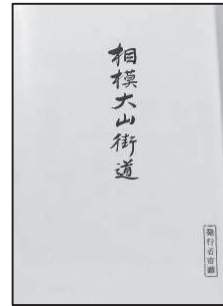
刊行：昭和62年（1987）



📖 解題

■ 内容

本書は佐野弥太郎により執筆された「資料 大山街道」を中心に構成されている。これは元々、大山阿夫利神社発行の季刊誌『大山』に「大山街道（道標の調査より）」として連載されていたものであり、本書に収録されるにあたり一部加筆、修正がなされた。大山街道に建立された道標と各道の歴史について網羅的に調査されており、他の大山街道の研究にも影響を与えている。



[K17.64/29 a]

巻頭には高野修による大山街道の案内記が収録されている。これは佐野弥太郎より、「資料 大山街道」を「さらに読みやすくして、しかも案内記のようなものを前文につけてほしい」との依頼を受けて執筆されたものである。巻末には同じく高野による「権田直助とその生涯」が収められている。権田直助は国学者・医学者であり、大山阿夫利神社の再興に重要な役割を果たした。

また、大山阿夫利神社所蔵「開導記」は、先導師に所属する講の一覧であり、全記録が公開されるのは本書が初めてである。この講は大山講ともよばれ、江戸時代に最盛期を迎えた。

■ 作者

阿夫利神社は崇神天皇のころ、相模国大山に創建されたといわれている。大山の山頂に本社、中腹には下社が位置しており、古来より関東一円の信仰を集めている。祀られているのは大山祇大神（おおやまつみのおおかみ）、高

第3章 思想・宗教

霽神（たかおかみのかみ）、大雷神（おおいかずちのかみ）である。

延喜式神名帳には「阿夫利神社」の記載があり、残存する記録の中ではこれが最古のものである。なお、阿夫利神社という名前の由来は、一説には大山はかつて「雨降山」ともいわれたため、これが転じて「阿夫利」になったとされている。

佐野弥太郎は、高野修の「あとがき」によれば、伊勢原市在住の郷土史家で、歴史地理が専門である。武蔵・相模の古道はすべて実地に調査し、克明に記録された資料を元に、論文「大山街道」を発表した。

参考文献

『相模大山縁起及文書』石野瑛編著 武相考古會 1931 [K18.64/38]
[291.37/175]

『惟神道の躬行者権田直助翁』神崎四郎著 阿夫利神社社務所 1937
[K28.64/2]

『徳育資料 第2編』埼玉県教育会編 埼玉県立浦和図書館 1980
[K28.64/5A] [281.34/2/2a]

『大山道今昔』金子勤著 神奈川新聞社 1985 [K68/174] [C3.3/カ]

『伊勢原市史 別編 民俗』伊勢原市史編集委員会編 伊勢原市 1997
[K21.64/7/3-1]

『伊勢原市史 別編 社寺』伊勢原市史編集委員会編 伊勢原市 1999
[K21.64/7/3-2]

<デジタル>

国立国会図書館デジタルコレクション

『相州大山案内記』川戸藤吉著 田村書房 1907